**●里山の会「伝統的な技術伝承」炭焼き体験、窯出し作業　200 kg生産**　　こども 2 名と大人 11 名



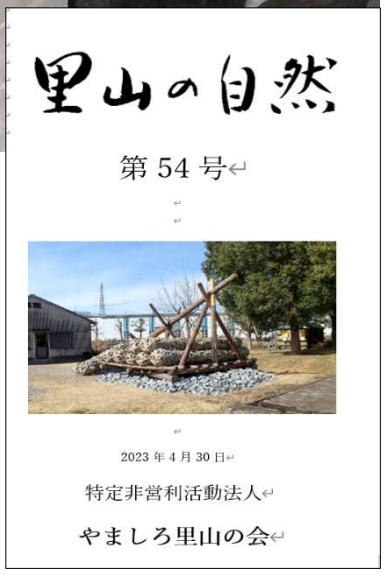
3 月 11 日に原木を窯詰めして 13 日に着火をし、14 日早朝に空気を遮断しました。昨年は窯の温度上昇に気を付けて、空気遮断のチャンスをうかがっていました。しかし思うように温度が上がらず着火できていないのではないかと判断をして空気遮断が遅れて原木が灰になってしまう大失敗となってしまいました。この失敗から原木の窯詰めに元打田薪炭組合の幹部であった 92 歳の植西干宇さんの指導をお願いして取り組みました。原木は木津川出張所で一昨年前に伐採し、近所に配布する予定の残りで十分すぎほど乾燥の進んだものを提供していただいて使用しました。カラカラに乾いていましたので、火の回りが早いだろうと予測していました。結果その通りで、焚口で燃やし始めた時から煙突からは激しく白い煙がモクモクと出ました。燃やし方は昨年と同じ勢いでありましたが、煙の出方は今年が激しく勢いがありました。これを見て植西さんは少し早めに遮断の時期を早めなければならないのだろうと指摘されていました。翌日の朝 8 時に空気遮断をして密閉をしましたが、少し密閉の時間が遅くなってしまったように思うと植西さんはおっしゃっていました。そして 30 日に出し口を開いて出来栄えをのぞいてみれば、今まで以上の多くの炭が見えました。そして、4 月 22 日待ちに待った窯開きを行いました。






今回の木炭の生産量は 200 kgでした。我々里山の会の全く素人の腕前としてはすごい生産ができたものです。植西さんという大ベテランさんのご指導をいただいたからです。良くお教えいただき感謝です。

今の木炭は輸入で賄われて、大型店で安く販売されていて、これまで里山で生産されて来た炭は殆どなくなっています。その結果、放棄されコナラなどの原木も大木になってしまい、伐採も困難な巨大な老木になっています。だから樹液がなくなり、多様な昆虫類の生息環境が衰退してきています。私たちも木炭の原木確保には体力面から太刀打ちできなくなって、木津川出張所の川での伐採木を利用させて頂いて、木炭生産技術をささやかに継承しているのです。生産された木炭を使いたいと希望される皆さんには、コンビニ単価でご利用をお願いいたします。出来ましたら福祉施設でのご利用いただくことができれば有難いと思っています。




**●会誌 54 号の編集原稿が準備できる。いよいよ最終段階の校正段階に**入っていますので、文書の校正のお手伝いをお願いいたします。ここまでは何とかこぎつけましたが、同じ人の目で見直してもなかなかミスを見つけ出すことは出来ないもので、第三者の力が必要です。わずかな時間でも結構ですので点検いただけるとありがたいです。どの時間帯でも結構ですのでお手伝いに事務所へお願いします。30 日には印刷発行したいと思います。

**●里山の会始まって以来のウイークデーでの通常総会　社員過半数以上の出席が総会成立の条件**　2022 年度の里山の会が実施したイベント数は 72 回でした。里山農園での活動日は年中無休で週 2 回（土・火）、事務局会議は毎週水曜日 9 時 30 分から休むことなく開催してきました。そしてパソコン教室（週刊ニュースの発行）確実に開催出来ました。そしてホームページの更新も毎週木曜日に実行できました。特に週刊ニュースは 978 回目となって 1000 号まであと 22 回で、10 月には到達できるところに来ました。そして戸別配達を続けてきていただいている皆さんも一緒にご奮闘をしてきました。自画自賛になりますが里山の会はすごいことを続けてきたものだと思います。まさに継続は力なりとよく言われますが実行してきた仲間の力が発揮されてきたものです。こうした仲間の努力の積み重ねの上に、来る 4 月 28 日（金）午後 1 時 30 分に京田辺市立中央公民館・大ホールで、第 29 回通常総会が開かれます。多くの社員諸氏、そして会員の皆さんが振るってご出席をくださるようお願いいたします。「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」スローガンの実現のため積極的な提案や質問・要望のご発言を時間の範囲でお願いします。多くの理事には留年をお願いしていますが、新しく理事就任者もおられると思いますので、力一杯のご協力、ご支援をいただければ有難いです。その結果、奮って活動の先頭に立つ元気が生まれるものです。新しい理事激励のために、多くの皆さんのご出席ご参加をお願いいたします。



●里山の会には印刷機で油性式のインキ式と水性式インキと黒インキ輪転機の 3 台が起動しています。そしてハンマーモアと言われる自走式の草刈り機 3 台、肩掛け式草刈り機 5 台、電動圧力式薪割機 1 台、鳥観察の双眼鏡 10 台、軽トラック 1 台、高橋式竹割機 1 台、50 万円のお茶碗 10 個等、その他多数が購入価格で 1350 万円相当の機器や備品があります。大部分が購入時期から 5 年以上経過しています。修理部品が調達できないものが大部分で、機能維持のためには更新する時期になっていて、その巨額の更新経費を準備しなければなりません。里山の会が迎えている財政事情を正しくとらえて、極力無駄を省いた運営にご協力をお願いいたします。また、2022 年度の事務経費も 140 万円で、活動経費も 108 万円で過去最高額になってきております。2023 年度の収入見込みでは、大学との協同事業がなくなり余力が生まれる収入がなくなりますので、財政運営は非常に苦しくなってきますので、安定財源は会費収入ですから、会員減少傾向を克服が第一です。ご協力をお願いいたします。

**●2022 年度の里山の会計監査　4 月 27 日に実施予定**

繰越金を含む 2022 年度総収入は 1488 万円で繰越金 1171 万円を含む支出金 1488 万円の決算の監査を受けることになります。総会直前になりましての監査で、監査委員にはご負担をかけますがよろしくお願い申し上げます。実は会事務を担当頂いてきた小川さんが体調を崩されて、その上理事長の大村さんも体調不良で食事が喉をとおらないということで窮地に立っての対応となりました。ご面倒をおかけしますが監査書類を一応整えることができましたので森島副理事長を先頭にして監査をお願いいたしました。

**●4 月 24 日ヤマトサンショウウオ池が干しあがり、今年度の幼生を含めた水生生物が全滅**

まだこれから卵嚢の産卵も考えられるのでしばらく厳しく監視を継続することにします。これまで下のタマリへの水路としてトイを取り付けてきましたが、4 月 6 日以降 25 日に発見するまでの 2 週間に土嚢がトイに乗せられて水がストップさせられてしまう事態が発生しました。ささやかな山の清水が止められて、卵嚢や幼生のタマリが干しあがり、生き物が全滅してしまいました。地域の人々に対する対応の不十分さが事故につながったのではないかと思っています。生存地を伏せての維持管理保持の難しさが表れた出来事でした。とりあえず現場には協力依頼のポスター看板を設置しようと思います。また近隣の地主に説明文の配布を近日中に行い、理解を得られるように対応いたします。